

# 2017年度の教育活動等に対する学校評価書

2018年3月19日  
学校法人聖隷学園  
聖隷クリストファー大学附属  
クリストファーこども園  
総園長 太田 雅子  
学校関係者評価委員

## 1. 園目標

<愛>	神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にすることを学ぶ。
<思いやり>	様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
<たくましさ>	自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
<いのち>	食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
<表現力>	自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
<自立>	生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

## 2. 2017年度の重点課題（事業計画）

◎完成年度（6年）を経て、新しい体制で質の高い保育を実践する

- ・少人数保育 - 保育者の役割分担（主教諭と補助）
- ・園庭環境の整備（3年計画の3年目）を行う。
- ・保育環境—アトリエの設置に向けての検討を行う。（計画年度）
- ・保育内容の拡充：園外保育（自然・異文化）の充実、国際教育（英語）の実施 - 5歳児1学期より課内での「イングリッシュ」の実施
- ・『ラーニング・ストーリー』を用いての記録と主体的学びを促す保育の拡充
- ・「言葉」（思考力・言語表現力）を豊かにするための保育の実施・表現力（造形・音楽・劇あそびを通して）を育むための保育実践に向けての研修
- ・物的環境の再度の見直し（発達に即した玩具・教具の設定・水周り）
- ・中核メンバーの主体的な働き・役割を強化し、業務の効率化をはかる。ワーキングライフバランスを推進するための具体的な方策を実施する。
- ・食育年間計画を新たに作成し、保育とキッチンが一体となり実践する
- ・3歳児入園者定員を確保する。（パンフレット作成、ホームページ充実）

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、○・・・目標どおり達成できた、△・・・十分に達成できていない・次年度の課題である、で表している。)

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	<p>[保育補助者の配置と役割分担]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各リーダー、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育教諭補助（無資格）の業務・役割の明確化を行う。</li> <li>年少・年中組は各3グループ(少人数)での保育の実践を行う。クラスリーダー補助として任命された準職員は、クラスリーダーの指示のもと、1グループの運営を担当する。</li> </ul>	○	<p>少人数保育を行うことにより、集団活動の中で子どもたちの落ち着きがみられるようになった。</p> <p>クラス担任が責任を持ってクラス運営ができるよう、各リーダー、クラスリーダー補助、保育補助による適切なサポートが必要である。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長のプロセスに合った集団の大きさがあるのだろうと思うので、それを意識した空間（集団）が作れるとよい。</li> <li>保育者の把握できる人数ということからも自ずと集団の大きさ、空間の広さが配慮されるとよいと思う。</li> </ul>
	<p>[保育計画・記録の見直しと精査]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クリストファーこども園『ラーニング・ストーリー』（記録）を活用しての主体的な学びを推進する。</li> <li>ラーニング・ストーリーを作成する作業部屋を充実させ、落ち着いて記録等が出来るよう、環境、時間の使い方について見直す。</li> <li>子どもの主体性を促すための指導案の様式を考案し、実践する。</li> </ul>	○	<p>作業環境の整備により、落ち着いて記録を作成できるようになった。ラーニングストーリーの内容については、「視点」を持った記録の書き方の理解が引き続き必要である。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明し易い子どもの現れよりも、ちょっと理解できない行動のなかに、意味があることもありそうだと感じる。「おや？」という保育者の気づきは大切な視点だと思う。</li> </ul>
	<p>[キリスト教保育について理解を深める]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラス会議の中で、月ごと礼拝内容、聖書箇所について学び、祈り合う時間を確保する（月1回は祈りだけの集いを持つ）</li> <li>キリスト者が中心となり、他学年に出向き礼拝を行う。</li> </ul>	○	<p>キリスト者が中心となり、毎朝の祈りをもつことができた。礼拝の持ち方の相談等にも積極的に関わることができた。今後も月1回の聖書研究において職員が分かりやすい内容を検討していく。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリスチャンでない保育者も「お祈り」できるようになれば嬉しく思う。シンプルなお祈りが大切。どの子もお祈りできる子どもとして育ててほしいと思う。</li> <li>家庭では関わらないことなのでとても興味があるようで、家族にも伝えてくれる。</li> </ul>
	<p>[保育者とキッチンが協力をして食育の計画を立て実践する]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野外クッキングコーナーを設置し、収穫物を用いてクッキングをし、会食をする。</li> <li>新園庭の畑で小麦、芋、豆などを栽培し収穫物を使って旬の食を味わう（旬のものを調理する）</li> <li>子ども専用の調理場を作り、安全で主体的な食育体験を行う。</li> </ul>	○	<p>収穫した野菜等での野外クッキングが充実していた。サンマを一尾丸ごと食べたり、魚の解体ショーなど、各学年の発達に合わせた食育を実施することができた。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの頃のさまざまな経験が子どもたちの感性を豊かにすると思う。</li> <li>食育の良い影響を受けていると感じる。家庭でも食材や自分が食べたもの、食べられなかったもの話をしてくれるようになった。</li> </ul>

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	[園庭の整備計画(3年計画の3年目)を実行へと移す] ・ボール投げ用の遊具を設置する。 ・築山等の整備を行う。 ・園外保育(自然体験活動)を充実・発展させる。	△	今年度は園庭整備計画の検討を行った。来年度より、3年計画の1年目としてビオトープの整備を含めた再構築を行う。	△	・自然と触れ合い、自然から学べる環境を提供することを意識して、取り組んでおられることに意味があると思う。プログラムで補うこともできると思うので、時間をかけて整備されていくとよい。 ・里山だけでなく園外に出る活動がもっとあってよいと感じる。園児同士で四季や自然を感じ、感動を共有する体験は素晴らしいと思う。
	[領域「表現」の活動を通しての感性・表現力の育ちを図る] 「音楽を楽しむ会」－園児や職員によるコンサート、ゲスト演奏家を招いての音楽会を開催する。	○	今年度は保護者による小さな音楽会の開催やジョンカミツカコンサート、子守唄コンサート等、音楽に触れる機会を多く持つことができた。 大学の二宮先生による表現の学び・クリスマス祝会に向けての表現や楽器遊び等の指導を受けることができた。	○	・臨場感のある生演奏に触れることは、魅力的な体験になると思う。
	[言語や思考力を高める保育実践を行う] ・言葉(コミュニケーションや思考力)の獲得・発達に関する研修・実践研究(発表)を定期的実施する。 ・絵本・童詩・ストーリーテリングの教材研究を行い実践に移す。	△	集団あそび(言葉)、集団ゲーム、リズム活動など園内研修を行い取り入れた。今後は劇あそび、ストーリーテリングの研修を実施する予定。また、今後はライブラリーの充実を図りたい。	△	・実践力を身につけようとして専門家から学ぶことは貴重ではあるが、興味をもって保育者自身がやってみる、うまくいかなくてもチャレンジすることからスキルは磨かれていくものと感じる。
	[イマージョン教育について検討する] ・英語のプログラムの見直しを行う。課外活動の内容と課内(5歳児1学期からの実施)の関連・相違性を検討して実行に移す。	△	外国人の保育補助を採用し、あいさつやランチタイムなど日常生活で英語に親しむ機会が増えた。音楽や絵本を読む時間などより英語に親しむ時間を増やしていきたい。 園におけるイマージョン教育の在り方、カリキュラム等は小学校接続を意識して要検討。	△	・未知との遭遇は、不安と好奇心からの始まり。出会うことから興味・感心をもち、親しみに代わっていくのだと思う。障がいのある友だちとの出会いも同じだと思う。 ・生活の中に英語があるということが大切だと感じる。
	[多文化体験を計画的に実施する] ・世界の様々な人々・文化(食)・自然や地理に関心を持つことができるような教材や活動を年間計画を立てて実施する。	○	世界の食文化に触れる外国料理の食育を月1回実施することができた。外国人保育補助やアジア学院生との交流により、より関心を持つことができた。	○	・異文化を体験することとともに、それを受容しあう大人たちの態度、友愛の場を体験することが、子どもたちにとって大切な経験の積み重ねになると思う。
	[満3歳児保育の実施] ・満3歳児保育のニーズを調査する。保育課程の作成や保育環境の整備を行う。	○	10月より満3歳児クラス(11名)を実施した。 在園児兄弟が多いが、地域のニーズを引き続き調査する。	○	・子育てをする親たちが孤立しないための取り組みは、今の社会では特に大切になってきていると感じる。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
保育環境の充実	[0～2歳児クラスの保育環境の整備] ・2階のトイレの水周りの整備を行う。 ・0～1歳児保育の内容の充実（保育環境・保育実践）を図る。 ・排泄の自立に向けて、発達に合った一貫性のあるサポートを行う。 （1歳児ヘレンタル布パンツ導入を検討）	○	1歳児ヘレンタル布パンツを導入により、排泄の自立に良い成果が表れており、保護者の協力も得られている。	○	・便利で効率的な育児のためのツールにチャレンジして検証していく姿勢はよいと思う。
	[アトリエの建設に向けての検討] ・2階テラスに、アトリエと職員休憩部屋を設置するにあたり、設計やデザインを考える。 （2017年度：計画、2018年度：実施予定）	△	ウッドテラススペースの活用の視野に入れ、アトリエの設置場所について引き続き検討が必要。	△	・生活のあらゆる場面に「創造性」を引き出す可能性があると思う。環境を整えることで保育者の意識が高まると思う。
保護者との連携	[ラーニング・ストーリーを活用する] ・個々の子どもたちのラーニング・ストーリーを充実させ、保護者懇談会の資料として活用する。保護者に対してラーニング・ストーリーをフィードバックしてもらうように働きかけ、保護者からのコメントを参考にしながら次の保育の手立てを考える。	○	保護者との面談の際に用いる資料として活用することができ、より具体的に園児の様子を保護者に伝えることができ、保護者とともに子どもの成長を喜ぶことができた。	○	・保護者から子育てにまつわるエピソードを通じた語りを引き出せるような面談ができると、保護者も成長していけると思う。
	[保護者の園行事への積極的参加を促す] ・保護者が主体的に参加する行事内容の検討（音楽バンド、コーラスなど）	○	保護者有志によるクリスマスのつどいのコーラスや、保護者会主催のワークショップ（アクセサリー作り、ペン習字、前髪カット）を開催し、多くの保護者が参加し好評だった。	○	・孤立しがちな保護者を気に留めて、子育て仲間の輪に誘えるような配慮は大切だと思う。
入園児募集	[園の保育内容についてわかりやすく発信する] ・わかりやすいパンフレット、子育て・保育に関する手引きなどの作成を行う。 ・未満児クラス入園者の説明会を充実させ、0歳・1歳児の相応しい生活リズムについて情報を発信していく。	○	プレこども園の開催や、入園説明会で園の理念やこれからの教育（非認知能力等）の動向について分かりやすく伝えることができた。パンフレット作成はできなかったが、次年度は自園らしいデザインで作成（手作り）する予定。	○	・実際に入園につながらなくても、子どもに視点をあわせた保育の魅力、保育施設のイメージを伝えることは、地域全体の保育環境を改善するためにも大切だと思う。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
小学校との連携	[イマージョン教育についての理解を深める] ・イマージョン教育を実践している園や小学校等の見学や研修参加を行う。	○	園長による PYP を実施する幼稚園や小学校の見学を行った。聖隷学園が目指す小学校の教育を踏まえ、本園の取り組みについて研究が必要。	○	・子どもたちは成長にそってニーズが変わるので、地域のつながりとともに成長段階を意識したサポートへの理念の共有は大切。
	[思考力の芽生えの時期を意識して保育実践を行う] ・創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を養うこと（計画）に留意して保育を行う。	△	創造的な思考の基礎がどのように養われているのか、ラーニングストーリー等で検討、研究する必要がある。探究型、主体的保育を3歳から実践するために具体的な方策を探る。	△	・子育ての結果は、幼児期にすべて見えるわけではないので、将来の成長と豊かな歩みを祈りつつ、今を支えるということだと感じる。 ・他の意見を聞いて自分の考えをリファインし、新しい思考への道筋をつけていく助けが大切。
安全・危機管理	[保護者・全スタッフの意識向上と運用] ・昨年に引き続き、職員・保護者対象の実践的な防災講座（訓練）を開催する。 ・降園時の駐車場の安全を確保するために、効果的・具体的な方法を検討し実施する。	△	防災講座を開催し、昨年に比べて趣旨を理解した参加（徒歩引渡、講演会）がとも増えた。駐車場の安全利用については保護者への注意を促しているが、昨年度に比べて保護者満足度が低下したため、安全指導を徹底し、ミラーや看板表示等の必要な整備を行う。	△	・安全については、大人たちの意識を高めて、知恵を出し合って対処していくしかないと思う。なかなか当事者意識のもてない保護者さんたちの意識を高めることのご苦労はあると思う。 ・問題点には必ず理由がある。保護者同士の歩み寄りが必要と感じる。園としては十分に努力されていると思う。
スタッフの資質の向上・連携	[中核メンバーの主体的な働きと役割の増進] ・主幹保育教諭、コーディネーター、以上児・未満児リーダーは、保育に入り、全保育教諭の意識を高め保育の質の向上を図る。また担任・保護者のニーズを聞き取り、敏速かつ細やかな指導、対応を行う。 ・リーダーは、積極的にリーダー研修に出かけ学びを得る。 ・ラーニング・ストーリーの記録について、リーダーが主となって共通理解の中で指導を行う。	○	キャリアアップのための研修参加を促し、各職員の主体的な働きの理解を図ることができた。 ラーニングストーリーは、若い保育者が楽しみながら書くための工夫と同僚との学び合いの活性化を行うことができた。	○	・ラーニングストーリーは、書く前に楽しく話せる雰囲気をもてるとよいと感じる。子どもたちの様子から感じたこと、発見したこと、自由に語り合う「井戸端会議」のような振り返りにヒントがあると思う。子どものことを語っている親たち、保育者たちの表情はいつも生き生きしている。
	[経験の浅い保育者への個別指導] ・効率よく事務作業・書類整理等を行う手立てを考え実行する（ICTの導入） ・保育を補佐する保育教諭補助（無資格者）の採用 - 手書きの記録や、写真などを効率的に入力し、保育教諭の作業をサポートする。	○	園内研修（公開保育）を取り入れ、お互いの保育を見て学び合う機会を得ることができた。自身の保育にどう活かすかについて、先輩保育教諭による指導やフォローを受けることができた。	○	・先輩から学ぶこともそうですが、他の保育者の話を聞く機会は、自分だけの経験を補うことにもなると思う。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
園経営全体の向上	<p>[保育準備・事務的作業の環境整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率よく事務作業・書類整理等を行う手立てを考え実行する（ICTの導入）</li> <li>・保育を補佐する保育教諭補助（無資格者）の採用 - 手書きの記録や、写真などを効率的に入力し、保育教諭の作業をサポートする。</li> </ul>	△	保育教諭補助の配置により、事務作業時間の軽減を図ることができた。さらに役割分担を明確にし、作業の効率化を図ることができた。しかし、ICT導入については情報収集や研修などができず、導入検討には至らなかった。	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた環境の中で成果を上げるために、仕事を整理し手間を省く努力は大切だが、手間を省くことのデメリットがあるかも知れないということは感じることもある</li> </ul>
	<p>[十分な休息、ワークライフバランスが取れた職場環境の整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間内に会議・記録が出来るよう、午睡時間・保育終了後の時間の過ごし方について見直しを行い、保育システムの再構築を検討する。</li> <li>・一つ一つの業務に制限時間を決め、終わりの時間を守るように指導する。 また、勤務終了後は、聖隷学園の施設（語学、スポーツ、図書館など）を積極的に利用するなど、プライベートの学びを充実させることにより生き生きとした仕事環境を作るよう努める。</li> <li>・全職員の時間への意識を高め、安心して家庭との両立を図れるよう、リーダーが中心となり協力体制を作る。</li> </ul>	△	9月よりプライベートな学びとしてイングリッシュサークルを実施し、プライベートな学びの充実と職員のモチベーションを高めることができた。リーダーは自分自身の業務を見直し、保育補助に代替してもらおう等、メンバーをサポートする時間を捻出した。仕事とプライベートを両立させる職員をモデルとした、他の職員のタイムマネジメントの意識づけを行っていきたい。	△	